

指標名：景気動向指数（2010年7月）

発表日：2010年9月7日（火）

～C I一致指数は上昇も、改善ペースは鈍化傾向～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○C I一致指数は上昇も、改善ペースは鈍化傾向

9月7日に内閣府から公表された10年7月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+0.5ポイントとなった。2ヶ月連続の上昇ではあるが、上昇幅は小さい。3ヶ月移動平均の前月差を見ても、ピークだった2010年1月の2.17から、7月は0.17にまで鈍化している。C Iの改善傾向が途切れているわけではないが、回復の勢いはかなり弱まっている。中国向けを中心として輸出が減速していることなどを背景に、生産の増勢が弱まっていることが影響しているとみられる。季節調整の問題もあって基調が読みづらくなっていることは確かだが、総合的に見て景気が減速に向かっていることは確かだろう。C I一致指数の内訳を見ると、生産財出荷指数がマイナス寄与となったものの、中小企業売上高や有効求人倍率のプラス寄与が大きかった。

なお、C I一致指数は改善ペースが鈍化しているが、3ヶ月移動平均では引き続き上昇が続いていることから、内閣府によるC I一致指数の基調判断は「改善を示している」が維持されている。

○C I先行指数は低下

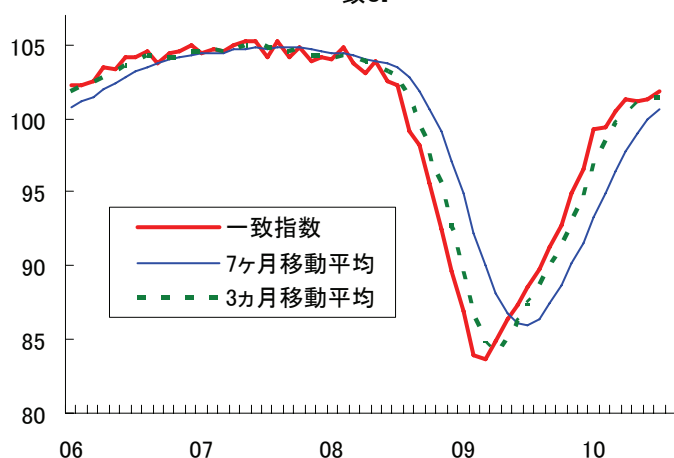
C I先行指数は、前月差▲0.8ポイントと低下した。鉱工業生産財在庫率や日経商品指数（前年同月比）などのマイナス寄与が大きい。足元のC I先行指数は、前年の裏が出ている影響で実勢よりも低く出やすくなっている点には注意が必要だが、そうした点を考慮しても弱めの動きが目立ってきている。

なお、翌8月分について展望すると、「東証株価指数」「長短金利差」「中小企業売上高」「日経商品指数」の4系列については既に数値が公表されており、マイナス寄与が確定している。特に「日経商品指数」「中小企業売上高」「東証株価指数」の3つについてはマイナス幅も大きいので、C I先行指数が8月も低下する可能性は高いだろう。

C I先行指数は、景気に対して半年から一年程度先行する傾向があると言われている。C I先行指数が4-6月期以降低下していることを踏まえると、2010年度後半に景気が正念場を迎える可能性が高い。今後の景気を占う上で、先行指数の動向に注意が必要だろう。

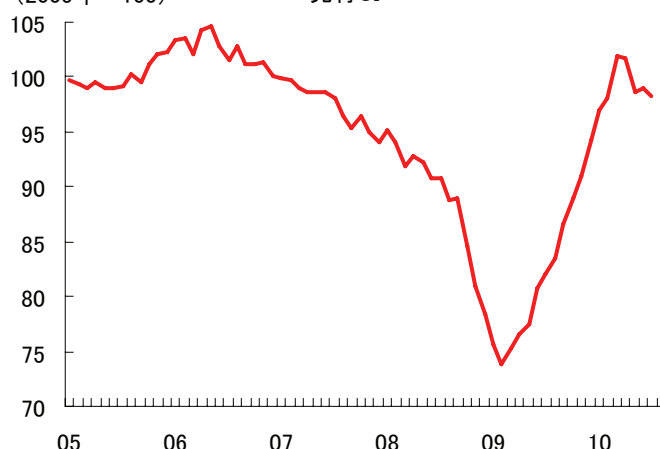
(2005年=100)

一致CI



(2005年=100)

先行CI



(出所) 内閣府「景気動向指数」